

令和元年ホヤ類調査結果速報 No. 2

令和元年9月4日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

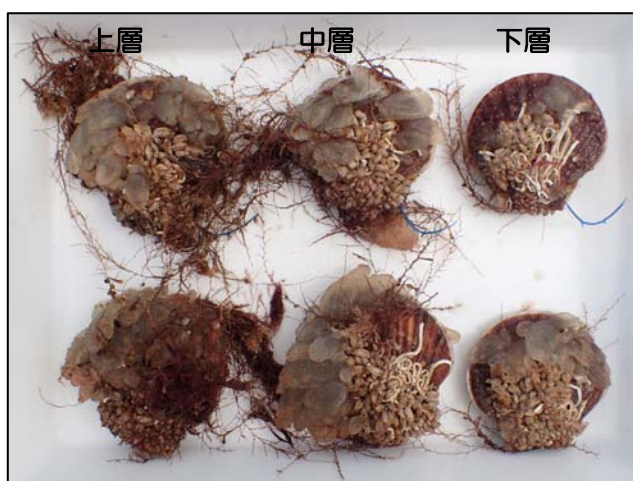
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

8月26日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ（図1）の付着数が大きく増加しています（図3上）。
- 付着数はホタテガイ1枚あたり110.9個体で（表1）、過去5ヶ年の平均と比較すると多いです（図3上）。
- 平均サイズは9.3mmですが、5mm未満の個体の割合が高く、新たな個体の付着が続いていると見られます（図2）。
- 付着重量はホタテガイ1枚あたり27.7gで平年並みですが、付着個体の成長に伴い10月以降、急激に増加すると考えられます（表1、図3下）。
- 過去のデータから9月以降、新たに付着する個体が減り、付着個体数も減少に転じると見込まれます（図3上）。付着量が多い湾奥部では付着物除去作業（貝洗い）の準備を進めてください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ稚ボヤ 令和元年8月26日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池
TEL：0138-83-2893 FAX：0138-83-2849

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：8月26日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました。多数のヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり110.9個体、平均サイズは9.3mmです（図1、2）。5mm未満の個体の割合が高く、新たな付着も続いていると見られます。過去5ヶ年の同時期のデータと比較すると、付着個体数は多く、8月としては平成28年、平成30年に近い数値です（表1、図3上）。なお、平成28年、平成30年ともに、9月の付着個体数は8月の1/2～1/3に減少し、例年並みとなりました。付着重量は27.7gで平年並みの数値です。付着重量は10月以降、付着個体の成長にともない急激に増加していくと考えられます。（図3下）。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和元年8月26日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	84.8g	77.1g	35.0g	65.6g
ヨーロッパザラボヤ	37.3g	37.9g	7.9g	27.7g
その他	47.5g	39.3g	27.7g	38.1g
ヨーロッパザラボヤ個体数	103.8個体	132.6個体	96.4個体	110.9個体
平成30年8月(H30.8.19)の個体数	89.4個体	148.8個体	103.8個体	114.0個体
平成29年8月(H29.8.23)の個体数	31.8個体	59.4個体	25.6個体	38.9個体
平成28年8月(H28.8.11)の個体数	80.6個体	129.2個体	134.8個体	114.9個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和元年6～8月）

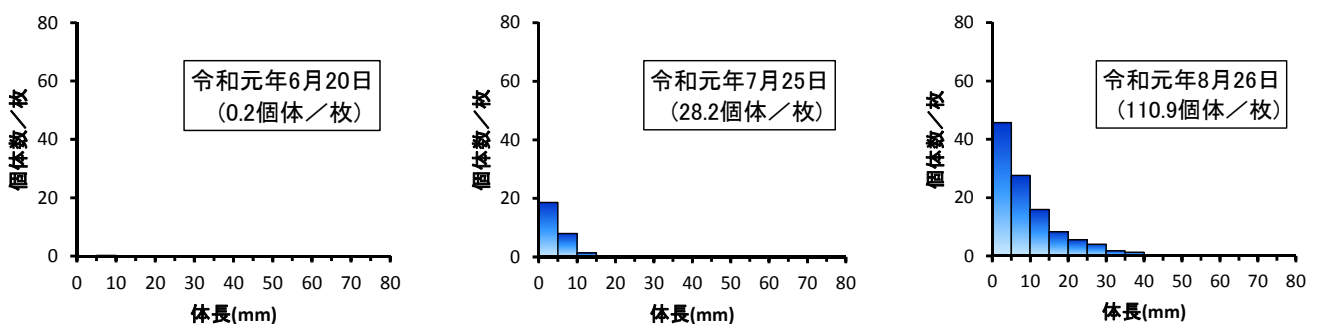
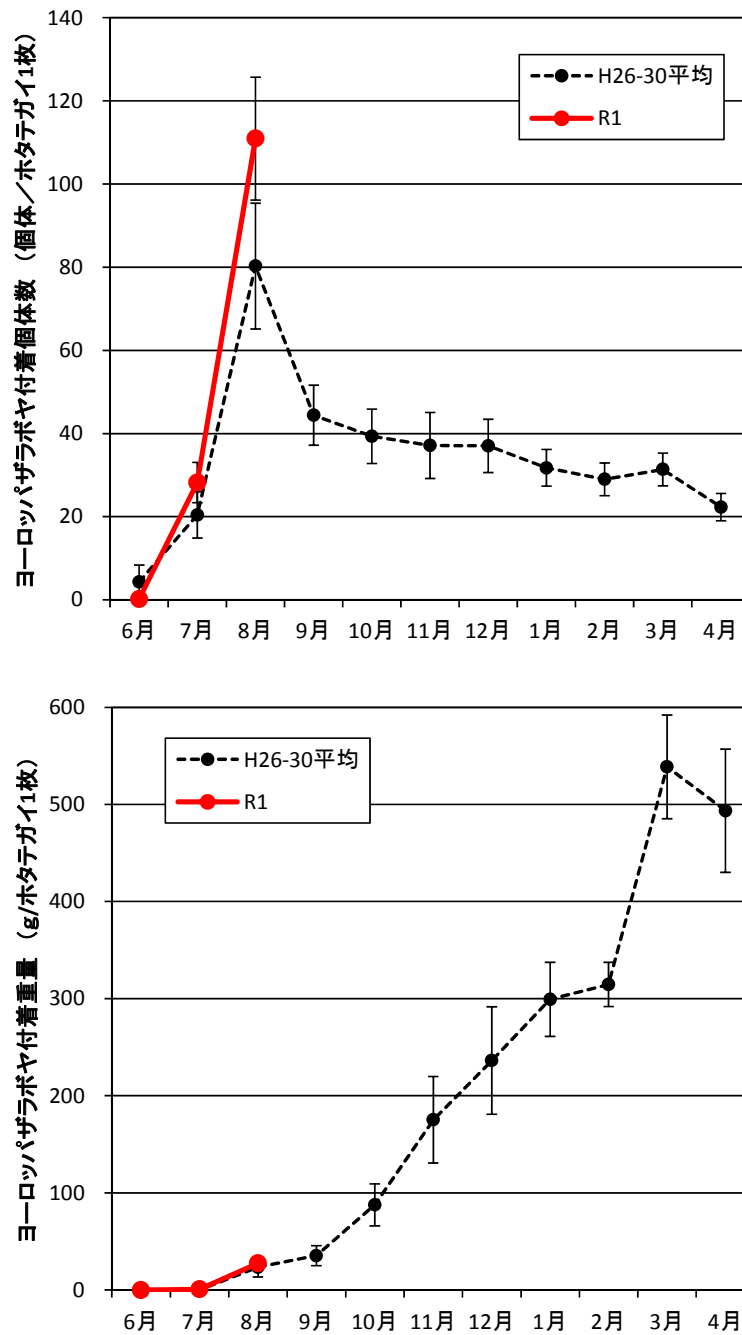


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H26～30年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が最も多くなっています。付着重量は10月以降、急激に増加します。